



日本統計学会 会報 2015.7.30

No.
164

発行 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
(公財) 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax: 03-3234-7738
編集責任 中野 純司(理事長) / 酒折 文武(庶務理事)
竹内 恵行(前広報理事) / 森 裕一(広報理事)
入戸野 健(前広報委員) / 久保田 貴文(広報委員)
西益 晴久(広報委員)
振替口座 00110-3-743886
銀行口座 みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

| | |
|---|---|
| 1. 会長就任のご挨拶..... 岩崎 学...1 | 10. 2015年度統計関連学会連合大会について 第三報) 坂本 亘・栗原考次・山口和範... 10 |
| 2. 会長退任のご挨拶..... 国友直人...2 | 11. 理事会・委員会報告 平成27年5月16日開催) ... 14 |
| 3. 理事長就任のご挨拶..... 中野純司...3 | 12. 定時社員総会報告..... 16 |
| 4. 理事長退任のご挨拶..... 鎌倉稔成...4 | 13. 日本統計学会会長選挙開票報告 竹田裕一・塚田真一... 17 |
| 5. 第20回日本統計学会賞について..... 国友直人...5 | 14. 理事会報告(平成27年6月13日開催) 18 |
| 6. 第11回日本統計学会統計教育賞について 国友直人...6 | 15. 修士論文・博士論文の紹介..... 18 |
| 7. 第9回日本統計学会研究業績賞について 国友直人...8 | 16. 新刊紹介..... 20 |
| 8. 第8回日本統計学会出版賞について 国友直人...9 | 17. 会員の諸活動(受賞等)について..... 20 |
| 9. 第29回日本統計学会小川研究奨励賞について 国友直人...10 | 18. 学会事務局から 20 |
| | 19. 投稿のお願い..... 21 |

1. 会長就任のご挨拶

岩崎 学(成蹊大学)

会長選任の一連の手続きを経て、2015年6月の理事会にて正式に日本統計学会会長に選出されました。この手続きの間、選挙の投票用紙に私の名前を書いていただいた方が大勢いらっしゃったことに思いを寄せ、選挙の重要性を改めて認識すると共に、その方々のご期待に応える責任を感じています。長い歴史のある日本統計学会を、中野純司理事長および理事・監事・代議員の皆さんと共に2年間運営していく所存です。会員諸氏のご協力をお願い申し上げます。

日本統計学会はこれまで、主として経済分野そして数理分野の研究者を中心に発展を遂げてきましたが、特に最近、ICT技術の飛躍的な発展にも後押しされ、その守備範囲をさらに広範に広げつ

つあります。その背景には、各種データを国民の共有財産とみなし、その活用を推進しようとする官公庁の姿勢の変化も見逃すことはできません。

GoogleのチーフエコノミストのHal Varianは「統計家はセクシー・ジョブ」といい、その言葉が一躍有名になりました。セクシーなどという表現は思いもよらなかった統計家としては、あちこちでこの言葉を喧伝してきました。実はVarianは、それに続くフレーズで「データを取り、それを理解し、解析し、そこから価値を見出し、視覚化し、



人に伝える力、これらは、今後何十年にもわたって極めて重要なスキルとなる。それは、専門家だけでなく、小中学校や高校の生徒から大学の学生といった教育現場でもしかり。」とも述べています。まさにこれは、現在の統計学の置かれている状況を言い表しているのではないのでしょうか。私は、自分の講演で、「セクシー」に加えてこのフレーズも忘れずに付け加えてきました。

2013年は国際統計年(International Year of Statistics)でしたが、それに呼応するかのようになり、統計学が一躍社会の注目を集めた年でありました。そしてそれは現在でも続いています。データサイエンティストなる言葉が世間を賑わっていますが、その根底にあるのはやはり統計学です。しかし「統計学」の意味するところは以前のそれではありません。日々刻々変化する社会の動きに連動した変化も必要ですし、それは日本統計学会にも言えることです。

日本統計学会は、統計関連学会連合大会の一環としての年次大会や3月の春季集会などの学術集会の開催、各種国際会議などの後援、学術雑誌の発行、Springer-JSS Research Series in Statisticsなど

の出版企画など、多くの事業を行っています。特に、2011年に開始した統計検定は、当初年1回実施だったものが年2回実施となり、受験者も増加の一途をたどり、順調な発展を見せています。今後もこれらの活動を積極的に進めると共に、上述のようにその果たすべき新しい役割をも見据えて活動してまいります。

社会からの期待に応えられるような学会となるよう、皆さんと共に歩んでいきます。

会長略歴

岩崎 学(いわさきまなぶ) 理学博士

現職：成蹊大学理工学部教授。

1952年12月：静岡県浜松市生まれ。

1977年3月：東京理科大学大学院理学研究科数学専攻修士課程修了。

茨城大学工学部情報工学科助手、防衛大学校数学物理学教室講師・助教授を経て1993年4月より成蹊大学に勤務。

1997年4月：成蹊大学教授、現在に至る。

研究分野：統計的データ解析の方法論と応用

2. 会長退任のご挨拶

国友 直人(東京大学)

2013年6月から2年間が経ちましたが、この間、理事長や庶務理事をはじめとして学会でのボランティア活動を行っている方々の好意に支えられながら、無事に会長としての任期を終えることが出来ました。元来はどちらかというと経済・経営・金融などのかなり限定されている分野における統計学の理論と応用に関心がある私ですが、この間、日本統計学会に属する様々な研究教育の領域を専門分野とする方々と接するうちに、以前に比べると日本の統計学の研究・教育の実情をより広く理解するとともに、日本における統計学の現状と課題についても考えさせられることが多かった2年間でした。

この間に参加している日本学術会議の統計関係の会合などでも時々議論されてはいますが、ご承知のように日本における統計学の高等教育・研究体制を整備する必要性については、広く認められるようになりつつあります。しかし、より具体的に日本が先進国と呼ばれるのにふさわしい水準の高等教育・研究組織を整備しポストを拡大することの困難さは、従来にも増して大きい、ことを痛感させられることもありました。その中で学会での活動として一見すると地道ではありますが、対外発信の一つの場として「JSS-Springerシリーズ書籍」の企画、「統計検定」やインターネットによる統計教育「JMOOC」等の社会貢献の推進、

などの学会活動に力を入れてきたつもりです。後者については特に竹村彰通前会長をはじめとして多くの会員の方々が現在も大きな貢献を続けていますが、世間的にはようやく統計教育の重要性が認知されつつある中、今後、日本統計学会の会員がさらに協力し、力を入れて貢献すべき事項であると考えます。また、日本の中学・高校の教育内容における統計学の役割が増大していること、「Data Analysis」の必要性や「Big-Data」の統計分析の重要性がしばしば述べられていることに象徴しているビジネス界での統計学の役割が増大していること、などは統計学に関係する我々には歓迎すべき動向です。このことは同時に、こうした課題に日々かかわっている統計教育、計算統計やビジネス統計教育の方々を含め、社会における日本統計学会の役割が今後ますます重要になって行くことを意味し、学会として積極的に取り組んでいくべき問題と思われれます。

このように私の学生の頃、すなわちかなり昔に比べると統計学に対する世間一般の雰囲気が近年では劇的に変化しています。その中であって他方で統計学の研究面では、以前から「研究における

流行(ファッション)」という言葉が示すように fashionable な分野で fashionable な研究を行う、ことが特に国際的活動では重視されています。流行の分野で流行の研究テーマについて研究し、結果を出さないと評価されにくく就職も厳しいという研究者が直面する現実と接し、あえてもう少しじっくりと研究・教育に取り組みたいと考えて今の職場を選んだ記憶を思い起こします。当然ですが教育の世界、ビジネスの世界、さらに学問の世界でも、何かが流行するにはそれなりの理由がありますが、しばらく時間が経過して一過性の流行が過ぎ去った後には本当に良いものが残ることになる、と云うのが経験から学んだ教訓です。多くの研究者にとっては本来の研究活動と教育活動への資源配分のバランスがより難しくなっている中、日本統計学会が長い目で見て本当に良い成果を挙げるような場、としての役割を果たしていく重要性もますます高まると思われれます。

今後はまた日本統計学会の一会員に戻りますが、皆様方とともに「研究、教育、ビジネスなどの面で社会に貢献できる統計学」についてご一緒に考え、行動してゆければ幸いです。

3. 理事長就任のご挨拶

中野 純司(統計数理研究所)

このたび伝統ある日本統計学会の理事長に任命されました。個人的には青天の霹靂とも言うべき事態でした。歴代の理事長は錚錚たるメンバーであり、わたしがその方々の末席を汚すことなどとても信じられませんでした。しかしながら選んでいただいた以上、微力ながらもこれまでの理事長に近づくべく役割を果たさないといけないと気を引き締めております。岩崎会長、理事、監事、代議員、会員の皆様のお力を借りて、2年間、日本統計学会の運営に精一杯尽力したいと考えています。

統計学は「データを扱う科学」であり、データ、その扱い方、目的には時代背景、技術、必要性に

したがって非常に幅広いアプローチがあります。そのため、日本統計学会会員の所属も興味も多種多様です。しかしながらそれらの中には多くの共通の「統計的な考え方」があることも明らかです。そしてそれらは社会にとっても非常に有用なものであるにも関わらず、日本における認知度は諸外国に較べて低い状況です。また、日本人研究者による多数の質の高い研究成果があるにも関わらず、日本からの情報発信(特



に日本発の学術誌によるもの)は十分とは言えません。最近、ビッグデータの重要性が広く認識され、それに伴い統計学にも高い関心が寄せられていることは確かです。ただビッグデータに関しては「データを扱う技術」の側面の強いコンピュータ科学が「因果関係はもはや考慮する必要はなく、関連さえ考えればよい」とか「ビッグデータがあれば比較的簡単なアルゴリズムで十分な予測ができる」という考えを標榜し華々しい成果をあげており、より注目されていると言ってよいと思います。

このような状況においてわれわれは統計学をより発展させるとともに、その考え方を社会に正しく還元してゆく必要があります。そのために日本統計学会は何をするべきでしょうか。まず、統計学研究のレベルをいろいろな方向に高めるための場を提供することです。学問も人間がやるものですので統計学関係者のローカルな切磋琢磨の場は重要です。それが第一義的な日本統計学会の役割でしょう。このためにはより良い議論の場(研究会、学会誌)を提供すること、それらの国際化、などが必要です。特に国際化は重要で、国際語である英語の利用や近隣諸外国の学会とのこれまで以上の協力を行わねばなりません。また現在では科学においても商用化や分野間の競争を免れるこ

とは難しくなっています。必要な研究体制を維持するためにも、これまでの優れた部分を守りながらも新しい工夫を行うことが必要でしょう。さらに日本社会の中での統計学のプレゼンスを高める必要があります。そのために日本統計学会ではこれまで関係者の多大な努力により義務教育における統計学の復権、統計検定の実施などを実現してきましたが、この動きは引き続きサポートする必要があります。

統計学は科学にとっても(日本)社会にとっても必要不可欠なもので、より高度化し認知度を高める必要があります。そのための日本統計学会の活動に会員の皆様の積極的なご参加をどうかよろしくお願いいたします。

理事長略歴:

中野 純司(なかのじゅんじ) 理学博士

1955年7月: 徳島県徳島市生まれ。

1980年3月: 東京大学大学院工学系研究科計数工学専門課程修士修了。

徳島大学工業短期大学部助手、埼玉大学大学院政策科学研究科講師、一橋大学経済学部助教授を経て1998年4月より統計数理研究所教授、現在に至る。

研究分野: 時系列解析, 計算機統計学

4. 理事長退任のご挨拶

鎌倉 稔成(中央大学)

2013年3月、学習院大学での社員総会で、予期していなかった理事長職が回ってきてから早2年が過ぎ、あつという間に退任の時期がやってきました。その仕事において最も大変なことは、理事会のメンバーの選定(いわゆる組閣人事)です。これがうまく行けば、半ばうまくいったも同然であるといわれてきましたが、まったくその通りであることを肌で実感している次第であります。私は幸運にもメンバーに恵まれ、多くの人に協力を仰ぎ、また自主的に日本統計学会の運営に参加し

ていただきました。この場をお借りして感謝の意を述べたいと思います。

就任の挨拶のときに、「理事会の中にふたつの臨時委員会を作りつつあります。そのひとつは専門書、啓蒙書、教科書を出版企画し、もう一方は、産学連携推進のための委員会です。そして前理事長から引き継ぎ、新しく国際担当の理事を置くこととしました。学会の国際化はこれからの学会に必要な不可欠です。」と書いていますが、まずまずの成功を収めていると評価しております。出版・

企画の部門において、最もアクティブに進んでいるのは、統計検定に関わるものであり、統計テキストの出版の品質を高めるうえで大きな成果をあげていると考えています。また、前理事長からの置き土産でありました、統計百科事典の翻訳もこのほどようやく出版委員会の仕事として始めることとなり、まだまだ会員の皆様には協力をお願いします。

次年度は、これまで国際担当の理事としてご活躍いただいた中野理事が、私の後を受け継ぎ理事長職を引き受けられましたので、ますます学会の国際化を進展していただけると確信しております。この夏の連合大会では、企画セッションとして CSA-KSS-JSS joint international session を開催することです。北米における JSM のように、アジア地区における統計連合国際会議を定期的を持ち、アジアのステータスを世界に示すためには、

このような小さな企画であっても、継続的に連携することが必要であると考えています。ただ、非常に難しいのは、招聘者旅費等の工面の問題です。理想的には、参加者が自主的に自費で参加したいという、魅力ある国際会議にすることです。それには、大学教員や研究者というアカデミアだけでなく、統計を使って仕事をする会員を増やし、教育や実務に必要な統計情報や就職情報を公開し、統計分野全体として学問的にも経済的にも豊かな分野にすることだと思います。

始めにも申しましたが、理事長の仕事でもっと難しく、大変なことは会員や理事の有用な力をいかに融合的にご提供いただけるかに大きく依存しています。その意味で、私はこの2年間、十分に皆様のご協力を得ることができたと感じています。ありがとうございました。まだ、残っている仕事もあります。今後ともよろしく願います。

5. 第20回日本統計学会賞について

前日本統計学会長 国友 直人(東京大学)

[1] 受賞者氏名: 久保川 達也 氏

略歴: 1982年 筑波大学第一学群自然科学類卒業、1987年 筑波大学大学院博士課程数学研究科修了(理学博士)、1987年 筑波大学数学系助手、1989年 東京大学工学部計数工学科講師、1994年 東京大学経済学部助教授、1996年 東京大学大学院経済学研究科助教授、2001年 同教授(現在に至る)

授賞理由: 久保川達也氏は統計的推測の分野で幅広く活躍され、特に縮小型推定、小地域推定、モデル選択、逐次解析などの問題群に対して統計的決定理論の枠組みから接近し顕著な業績を挙げた。特筆すべき業績として、2つの推定量のリスク関数の差を積分表現するという IERD 法があるが、その扱いやすさから多様な推定問題に適用可能であり、推定量を改良する上で非常に強力なツールとなっている。また、高次元多変量解析や小地域推定などの応用を通じて縮小型推定法の有用性を

示したのもあり、理論と応用の両面から縮小型推定手法の世界を深め広げてきた点は評価される。さらに、日本統計学会理事や会報担当理事、欧文誌編集委員長などを歴任し、若手統計学研究者の育成にも尽力されてきた。

同氏のこのような統計学界の発展及び普及に対する多大な貢献は、日本統計学会賞にふさわしいものである。

主要業績:

- [1] Admissible minimax estimation of a common mean of two normal populations. *Annals of Statistics*, 1987, Vol.15, 1245-1256.
- [2] The Stein paradox in the sense of the Pitman measure of closeness. *Annals of Statistics*, 1989, Vol.17, 1375-1386. Coauthored with P.K. Sen and A.K.Md.E. Saleh.
- [3] A unified approach to improving equivariant

estimators. *Annals of Statistics*, 1994, Vol.22, 290-299.

- [4] Estimation of the precision matrix of a singular Wishart distribution and its application in high dimensional data. *Journal of Multivariate Analysis*, 2008, Vol.99, 1906-1928. Coauthored with M.S. Srivastava.
- [5] Conditional and unconditional methods for selecting variables in linear mixed models. *Journal of Multivariate Analysis*, 2011, Vol.102, 641-660.

[2] **受賞者氏名:** 美添 泰人 氏

略歴: 1969年 東京大学 経済学部 経済学科 卒業, 1975年 東京大学大学院経済学研究科 博士課程 修了, 1978年 Harvard University, Graduate School of Arts and Sciences 修了 (Ph.D.), 1978年 立正大学 経済学部 講師, 助教授, 教授, 1992年 青山学院大学 経済学部 教授, 2015年 青山学院大学経営学部 プロジェクト 教授, 2015年 青山学院大学名誉教授; 1994年 経済企画庁 景気基準日付検討委員会委員 (現在に至る . 1999年 景気動向指数研究会に改称, 2001年 内閣府 経済社会総合研究所に移管), 1996年 統計審議会委員 (2003年まで), 2005年 統計審議会会長 (2007年まで), 2007年内閣府統計委員会委員 (2009年まで); 1994年 日本統計学会 理事長, 2009年 日本統計学会会長

授賞理由: 美添泰人氏は, 多年にわたり, 経済統計の研究と実務の両面に尽力した. とりわけ, ミクロデータによる実証研究およびその背景をなす理論研究は, 諸外国に比べて立ち遅れていたこの分野の研究を促進する原動力となった. また, こ

れらの研究面での成果を, 公的統計改革において実地に活用することによって, わが国の公的統計の整備・発展に大きく貢献した. さらに, 大学間連携共同教育推進事業「データに基づく課題解決型人材育成に資する統計教育質保証」の代表校の担当者として, 統計教育の質向上に取り組んでいる. 日本統計学会理事長および会長として, 学会の法人化など, 学会運営の安定化・円滑化にも注力した.

美添泰人氏の統計学の発展及び普及に対する多様な貢献は, 日本統計学会賞にふさわしいものである.

主要業績:

- [1] 美添泰人 (2012) 「 統計制度改革の意義と今後の課題 」 『 日本統計学会誌 』 第41巻シリーズ J 337-340ページ .
- [2] Yoshizoe, Y. (2011), “Economic Statistics,” in: Lovric, M., ed. (2011), *International Encyclopedia of Statistical Science*, Springer, pp.417-421.
- [3] 美添泰人 (2011) 「 公的統計における頑健統計学の利用と景気動向指数 」 『 景気とサイクル 』 第51号 81-97ページ .
- [4] 美添泰人・元山齊・古隅弘樹 (2009) 「 法人企業統計データを利用した地域経済活動指数作成の試み 」 『 統計数理 』 第57巻 305-329ページ .
- [5] 美添泰人 (2001) 「 小地域統計の推定手法と応用 」 『 経済研究 』 第52巻 231-238ページ .
- [6] Yoshizoe, Y. (1991), “Leverage Points in Nonlinear Regression Models,” *Journal of Japan Statistical Society*, 21, pp.1-11.

6 . 第11回日本統計学会統計教育賞について

前日本統計学会長 国友 直人 (東京大学)

[1] **受賞者氏名:** 独立行政法人統計センターにおける教育用擬似マイクロデータの開発チーム (代表: 山口 幸三氏)

略歴: 2009年 教育用擬似マイクロデータの開発を開始, 2010年 作成方法を検討し, 学会等を通じ

て意見等の聴取, 2011年 作成方法を確定し, データを作成, 8月に試行提供を開始.

授賞理由: 開発チームは, 以下に述べる本データの特徴及び利活用の実績から, 日本における統計教育発展への多大なる貢献に加え, 統計教育の高

度化に資するものとなっており、高く評価することができる。

1. 個票データ(調査票情報)から集計した高次元のクロス集計表を基に擬似的なマイクロデータを作成し、原データに近い集計表や統計量が復元できるようにした。

2. このため、従来の調査票情報や匿名データでは困難であった大学の大規模授業における統計教育演習でのマイクロデータ使用が容易になった。2011年8月の試行提供開始以来、多くの大学で実際に利用されている。

3. SAS, SPSS, R等の統計パッケージを用いたコンクールや講習会へのデータ提供も積極的に行っている。

4. 本データの開発方法は、「公的統計の整備に関する基本的な計画」(平成26年3月)に記された「一般用マイクロデータ」の基礎となるものであり、今後さまざまな統計コンテンツに活かされることにより国民の統計への関心を飛躍的に向上させる可能性を有している。

山口氏を代表とするチームのこれらの活動は統計教育のこれからの発展に大きく貢献するものであり、統計教育賞にふさわしいものである。

主要業績:

山口幸三, 伊藤伸介, 秋山裕美(2013)「教育用擬似マイクロデータの作成—平成16年全国消費実態調査を例として—」, 『統計学』第104号, 経済統計学会, pp.1-15.

秋山裕美, 山口幸三, 他(2012)『教育用擬似マイクロデータの開発とその利用—平成16年全国消費実態調査を例として—』(独立行政法人統計センター製表技術参考資料16)

山口幸三, 他(2012)「教育用擬似マイクロデータの提供における現状と課題について—アンケート結果を踏まえて—」, 2012年度統計関連学会連合大会, 平成24年9月9日~12日, 北海道大学

伊藤伸介(2013)「Development of Synthetic Microdata for Educational Use in Japan」, IASE / IAOS(ISI サテライト 会合), 平成25年8月22日~24日, マカオ

[2] 受賞者氏名: 峰野 宏祐 氏

略歴: 2009年 静岡大学教育学部卒業, 2011年 横浜国立大学大学院教育学研究科修了, 2011年 神奈川県立柏陽高等学校教諭, 2013年 東京学芸大学附属世田谷中学校教諭(現在に至る)

授賞理由: 峰野氏は、近年統計教育の分野でも注目されているモデリングに関する研究を大学院生時代から精力的に行っている。特に、数学的モデリングの指導における、「たたき台 修正」を軸としたモデルの構築過程に焦点を当て、その発想を統計手法の導入場面の指導に活かす方法について取り組んでいる。また、統計教育方法論ワークショップや科学教育学会等において、生徒の中にある統計に関わる素朴な概念を表出させ、それらを目的に応じて定式化していく指導法の提案やその発想を軸にした統計教育カリキュラムについての検討結果を発表するなど、その成果を発信し、多くの先生方と共有しており、今後の統計的な概念の定着や統計的なモデリングを取り入れた統計教育の推進に大きな役割を果たしてきている。峰野氏のこれらの活動は統計教育のこれからの発展に大きく貢献するものであり、統計教育賞にふさわしいものである。

主要業績:

Kosuke Mineno, Yuka Nakamura, and Tomoyoshi Ohwada(2012). Characterization of the intermediate values of the triangle inequality. *Mathematical Inequalities & Applications* volume15, pp.1019-1035.

富田真永・峰野宏祐(2013)。「ファーストフードのポテトの重量を比較しよう」。 裕元新一郎 編著『統計指導を極める』。 明治図書。 pp.138-141.

峰野宏祐・富田真永(2014)。「中・高等学校における統計領域の系統案に関する一考察—生徒の問いと、そこから生じる活動に焦点を当てて—」。 日本数学教育学会誌96(1)。 pp.60-63.

峰野宏祐・富田真永(2014)。要約統計量・グラフ表現を関連づけた四分位数・箱ひげ図の指導についての研究。統計教育実践研究。5。 pp.119-124.

峰野宏祐(2014).「数学的モデリングの授業実践における検討課題に関する事例的考察」. 第38回日本科学教育学会年会論文集. pp.41-44.

峰野宏祐(2015). 数学モデリング教材「桜の開花予想」の統計的観点による一考察. 統計教育実践研究. 6. pp.163-168.

7. 第9回日本統計学会研究業績賞について

前日本統計学会長 国友 直人(東京大学)

[1] 受賞者氏名: 加藤 昇吾 氏

略歴: 2003年 慶應義塾大学理工学部数理科学科卒業, 2007年 慶應義塾大学大学院理工学研究科基礎理工学専攻博士課程修了(博士(理学)), 2007年 慶應義塾大学大学院理工学研究科特別研究助教, 2008年 統計数理研究所予測発見戦略研究センター特任研究員, 2009年 統計数理研究所数理・推論研究系助教, 2014年 統計数理研究所数理・推論研究系准教授, 現在に至る.

授賞理由: 加藤昇吾氏は, 統計学関連の影響力の大きい学術誌上に論文を多数出版してきている. 氏は, 主たる研究として, 方向統計学の分野において円周上, シリンダー上, トーラス上の新しい分布を多数提案し, 分布の詳しい性質を調べてきた. 円周上の分布においては, 単位円周からそれ自身への変換である Möbius 変換の角度分布への利用についていくつかの研究を行い, 一つには von Mises 分布に従う確率変数を Möbius 変換して得られる分布の性質を詳しく論じ, 回帰や確率過程への応用という道を切り開いた. また, 巻き込み Cauchy 分布の一般化に成功し, 和に関して再生性をもつ新しい非対称分布を提案した. 氏は Möbius 変換をトーラス上の分布の構成において利用する研究も行っており, 氏の研究対象は拡がりをもって本分野に大きく影響を与えている. 以上の通り, 加藤氏の業績は, 方向統計学の分布論の分野における発展に大きく貢献しており, 日本統計学会研究業績賞として顕彰するに相応しいものである.

主要業績:

[1] Kato, S. (2010). A Markov process for circular data. *Journal of the Royal Statistical Society: Series B*

(*Statistical Methodology*), 72, 655-672.

[2] Kato, S. and Jones, M.C. (2010). A family of distributions on the circle with links to, and applications arising from, Möbius transformation. *Journal of the American Statistical Association*, 105, 249-262.

[3] Kato, S. and Jones, M.C. (2013). An extended family of circular distributions related to wrapped Cauchy distributions via Brownian motion. *Bernoulli*, 19, 154-171.

[4] Kato, S. and Jones, M.C. (2015). A tractable and interpretable four-parameter family of unimodal distributions on the circle. *Biometrika*, 102, 181-190.

[5] Kato, S. and Pewsey, A. (2015). A Möbius transformation-induced distribution on the torus. *Biometrika*, doi:10.1093/biomet/asv003.

[2] 受賞者氏名: 黒住 英司 氏

略歴: 1992年 一橋大学経済学部卒業, 1997年一橋大学院経済学研究科修士課程修了, 2000年一橋大学大学院経済学研究科博士課程修了(経済学博士), 2000年一橋大学大学院経済学研究科講師, 2003年一橋大学大学院経済学研究科助教授, 2009年一橋大学大学院経済学研究科教授, 現在に至る.

授賞理由: 黒住英司氏は近年時系列データおよびパネルデータにおいて構造変化を伴う場合の統計的検定方法, モデル選択方法に関して顕著な業績を上げている. 検定に関しては, トレンドのような非斉次な説明変数を持つ回帰モデルにおいてパラメータが変化する可能性があるとき, 従来のワールド型の検定統計量の帰無仮説の下での極限分布を明らかにし, 効率的な有意水準の計算方法を提

案している。またワールド型検定、CUSUM 検定の構築に必要な未知パラメータに対して、よりバイアスの少ない推定量を提案し、それに基づいた検定統計量ではこれらに比べ size-distortion が大きく改善することを示した。さらにパネルデータに対しては、個人ごとに説明変数および誤差項の時系列構造が異なる場合について局所最良不変あるいは一点において最適な検定統計量を導いている。一方、モデル選択方法に関しては、多変量回帰モデルにおいて AIC, BIC, Mallows' Cp などの情報量規準を構造変化の回数も考慮して修正した規準を提案し、その優劣を明らかにしている。以上の研究は、構造変化を伴うデータの実証分析に対しても大きな貢献であり、日本統計学会業績賞として顕彰するにふさわしいものである。

主要業績:

- [1] Kurozumi, E. and Tuvaandorj, P. (2011). Model selection criteria in multivariate models with multiple structural changes. *Journal of Econometrics*, 164, 218-238.
- [2] 山崎大輔氏・黒住英司 (2014) 「レベル・シフトの検定と検出力の非単調性」*日本統計学会誌シリーズ J*.
- [3] Kurozumi, E. (2015), Testing for multiple structural changes with non-homogeneous regressors. *Journal of Time Series Econometrics* 7, 1-35.
- [4] Yamazaki, D. and Kurozumi, E. (2015). Improving the finite sample performance of test for a shift in mean. *Journal Statistical Planning and Inference*. Forthcoming.

8 . 第 8 回日本統計学会出版賞について

前日本統計学会長 国友 直人(東京大学)

受賞出版物: R で学ぶデータサイエンス 全20巻 (既刊17巻)

受賞者氏名: 金 明哲 氏, 共立出版株式会社

略歴: (金 明哲氏) 1994年 総合研究大学院大学数物科学研究科統計科学専攻博士課程修了, 1995年 札幌学院大学社会情報学部助教授, 1998年 札幌学院大学社会情報学部教授, 2005年 同志社大学文化情報学部教授, 博士(学術) .

授賞理由: 近年, 統計科学の環境は大きく変化している。データの収集の方法は多様化され, データのサイズがますます大きくなり, データの流通は容易に, 統計計算やシミュレーションに必要なコンピュータがますます安価になっている。そしてデータマイニングや統計的機械学習のような新しい研究分野も生まれた。これらの共通点はデータを対象としていることであり, 本シリーズではこれらを含む用語としてデータサイエンスを用いる。

このような状況において, フリーの統計解析ソ

フトウェア R は, 統計学研究者にとって基礎教養の一つとなっているばかりではなく, 多くの分野の統計学利用者に広く利用されている。本シリーズは第一線の研究者が高度なデータサイエンスに関する理論を系統的に説明し, その方法を R で実践するという, 理論と実践を両立したものが多くなっている。また本シリーズでカバーされている範囲は広く, 手法に関するもの(カテゴリカルデータ解析, 多次元データ解析, ブートストラップ, マシンラーニング, 樹木構造, 一般化線型モデル, 視覚化など) から種々の応用分野(経営, マーケティング, 地理空間データ, 計量政治, 社会調査など) までを扱っている。そのため広い範囲の読者にとって有用な R とデータサイエンスの参考書群となっている。本シリーズは日本における R と統計学・データサイエンスの普及に重要な貢献をなしており, 日本統計学会出版賞としてとして顕彰するに相応しいと考える。

9. 第29回日本統計学会小川研究奨励賞について

前日本統計学会長 国友 直人(東京大学)

第29回日本統計学会小川研究奨励賞の受賞者と受賞論文は、以下のとおり決定いたしました。

受賞者氏名: 平野 敏弘 氏(日本電気株式会社中央研究所)

受賞論文: Hirano, T(2014) "Pseudo Best Estimator by a Separable Approximation of Spatial Covariance Structures," Journal of the Japan Statistical Society, Vol.44, No.1, pp.43-71.

受賞論文の評価: 空間統計学において線形回帰モデルは基本的な統計手法として広く使用されている。しかし、大規模空間データに対する一般化最小二乗推定量は誤差項の共分散行列の逆行列を含んでいるので、サンプルサイズが大きい時その計算時間は極めて大きくなる。

今回受賞対象となった平野氏の論文では、誤差項が空間相関を持ち、格子点上でデータが観測される場合の線形回帰モデルにおける回帰係数の推

定に対して、ある種の擬似最良推定量が提案された。この推定量に含まれる逆行列は、自己回帰過程によって表現される共分散行列の逆行列のクロネッカー積で表現されるため大規模空間データに対する高速計算が可能となる。受賞論文ではGrenander and Rosenblatt(1957) による時系列データに対する漸近論を格子点上のデータに拡張したYajima and Matsuda(2008) に基づいて、この擬似最良推定量の漸近分散の導出を行った。これは、部分的であるが、Rozanov and Kozlov(1969) , Amemiya(1973) , Engle(1974) などの結果の空間統計学への拡張と見なすことができる。数値実験はこの提案手法の妥当性を支持している。

空間統計学の理論的研究は実用面、応用面からも重要なトピックであるが、その分野に貢献した受賞論文は日本統計学会賞小川研究奨励賞にふさわしい論文である。

10. 2015年度統計関連学会連合大会について (第三報)

2015年度統計関連学会連合大会

運営委員会委員長 坂本 亘(岡山大学)

実行委員会委員長 栗原 考次(岡山大学)

プログラム委員会委員長 山口 和範(立教大学)

2015年度統計関連学会連合大会の第一報、第二報に続き、「第三報」をお届けします。本報が本大会に関する最後のご案内です。本報は連合大会について簡潔にまとめを行い、皆様の便宜をはかりたいと思います。今後、詳細プログラムや変更事項は、連合大会のウェブページ

<http://www.jfssa.jp/taikai/2015/>

に掲載いたしますので、どうぞ参照ください。

すでに5月8日(金) から6月10日(水) まで

講演申し込みを受け付けいたしました。おかげさまで、企画セッション講演77件(企画セッション20) , コンペティション講演29件、一般講演197件の申し込みを頂きました。これに加えて、ソフトウェアセッション5講演があり、総講演308件となりました。誠にありがとうございました。

1. 日程など

本大会に関する今後の日程は次の通りです。

大会開催日程: 9月6日(日)から9日(水)までの4日間

9月6日(日): チュートリアルセッションと市民講演会

9月7日(月)～9日(水): 本大会

場所: 岡山大学津島キャンパス

共催: 応用統計学会, 日本計算機統計学会, 日本計量生物学会, 日本行動計量学会, 日本統計学会, 日本分類学会, 統計教育大学間連携ネットワーク

(略称 JINSE) 文部科学省 大学改革推進等補助金 大学間連携共同教育推進事業 平成24年度採択「データに基づく課題解決型人材育成に資する統計教育質保証」

懇親会: 9月7日(月) 18:00～20:00

ホテルリマーニ(岡山県瀬戸内市牛窓町)

事前参加申込: 7月13日(月) 9:00～

8月17日(月) 17:00

2. 会場

本大会は、初日の9月6日(日)に、チュートリアルセッションと市民講演会を岡山大学津島キャンパスの創立五十周年記念館で開催します。2日目から4日目の9月7日(月)から9日(水)に、各種セッション講演を同所の一般教育棟で行います。

岡山大学津島キャンパス

〒700-8530 岡山市北区津島中1-1-1(創立五十周年記念館)

〒700-8530 岡山市北区津島中2-1-1(一般教育棟) 電話: 086-252-1111(代表)

- (1) 岡山大学津島キャンパスへのアクセスは、JR岡山駅西口バスターミナル22番乗り場から「岡山理科大学」行きに乗車し、「岡大入口」下車になります。(所要時間約8分)なお、本大会開催中は、午前のセッションに合わせてバスターミナル22番乗り場から岡山大学津島キャンパス間へノンストップの臨時バス「岡山大学

(臨時)」を運行する予定です。詳しくは、連合大会ウェブページの「会場」欄をご参照ください。

- (2) 9月6日(日)に岡山大学構内で昼食が取れる場所は、ピーチ・ユニオン(一般教育棟から西に徒歩3分)のみとなります。また、大会期間中に大学近辺で食事を取れる場所のマップを用意します。

- (3) 懇親会は、9月7日(月)夕方に瀬戸内市牛窓町にある「ホテルリマーニ」で行います。会場へは、岡山大学から送迎バスで移動します。懇親会に参加される方は、午後のセッション終了後、15:15に岡山大学津島キャンパス内・清水記念体育館前に集合してください。詳細は、ウェブページの「会場: 懇親会詳細」欄をご参照ください。

- (4) 無線LANサービスの提供はございません。

3. 参加申し込み

連合大会ウェブページで、大会と懇親会に事前申し込みできます。連合大会ウェブページの「申込」欄よりお手続きください。事前申し込み期間は2015年7月13日(月)9:00から8月17日(月)17:00までです。カード決済と銀行振り込みがあります。事前申し込みにより、参加費等が大幅に割引されます。ぜひご利用ください。

大会参加費(講演報告集代を含む)、チュートリアルセッション参加費(資料代を含む)とも会員(共催6学会の会員)・学生(会員・非会員を問わず)・学生以外の非会員により参加費が異なります。また、懇親会参加費は、一般(会員・非会員を問わず)・学生(会員・非会員を問わず)により参加費が異なります。詳しくはウェブページの「大会詳細」をご覧ください。市民講演会は無料です。

なお、共催6学会の会員でない招待者(企画セッション講演者、討論者等)の方を除き、講演者(一般・企画セッション・コンペティション講演を問わず)であっても別途参加申し込みの手続きが必要です。お忘れなきよう、よろしくお願いいたします。

たします。

4. 保育所

今年度は、保育所を利用できます。(完全予約制)。

期間：9月6日(日)～9日(水)

時間：7：45～18：00

場所：ポストメイト 保育園(イオンモール岡山6階)岡山駅から徒歩5分

<http://www.my-style.bz/individual/doremi.html>

対象：原則0歳児から6歳児(小学校入学前)まで

締切：8月14日(金)17：00

申込先：渡谷真吾(実行委員)

hoiku2015_at_ems.okayama-u.ac.jp(_at_ を @ に変更ください)

完全予約制ですので、利用を希望される方は、メールにて上記までご連絡ください。その際、利用日時とお子様の年齢をお知らせください。利用方法などの詳細については、後日連絡いたします。

5. 大会プログラム

プログラムおよび大会案内は連合大会ウェブページで公開し(8月上旬までに公開予定)、各学会にもお知らせします。ウェブページにはHTML版およびPDF版を用意いたします。プログラムは講演報告集にも掲載します。各学会を通じての印刷物冊子配布はございません。ご注意ください。

なお、講演者および共同発表者の所属は原則として講演申し込み時に入力頂いたものです。

6. チュートリアルセッション

チュートリアルセッションのテーマは下記の2つです。具体的な内容については、第二報をご覧ください。多くの方々のご参加をお待ちしております。

日時：2015年9月6日(日)13：00～16：00

場所：岡山大学創立五十周年記念館

受付開始：12：30

テーマ1：統計データの新しい利活用方法

講演者：西村正貴((独)統計センター)、山田利美((独)統計センター)他

場所：岡山大学創立五十周年記念館金光ホール

テーマ2：スパース推定と統計解析

講演者：川野秀一(電気通信大学)

場所：岡山大学創立五十周年記念館2階会議室

2つの講演は同じ時間帯に開催されますので、どちらか一方のテーマをお選びください。なお、途中でもう一方のテーマへ移動されても追加料金はかかりません。

事前参加受付は、2015年度統計関連学会連合大会のウェブページの「申し込み」欄から手続きできます(8月17日(月)17時まで)。当日参加も受け付けますが、あらかじめ参加費を納めていただく場合、大幅な割引が受けられます。当日受付の場合、参加費(資料代含む)は、会員(共催、協賛の6学会の会員)4,000円、学生(会員・非会員を問わず)4,000円です。学生以外の非会員は8,000円です。

7. 市民講演会

市民講演会は、2名の先生方にご講演をお願いいたしました。今年の市民講演会は「ビッグデータ・インパクト 新たなデータ活用がもたらす世界」というテーマで、ビッグデータの活用の実態を身近な事例を通じて市民の方々に知っていただくことを目的として企画しました。具体的な事例として、教育について木村治生氏が、スポーツ、特にサッカーについての事例を安松幹展氏が取り上げます。多くの方々のご参加をお待ちしております。参加費は無料です。

日時：2015年9月6日(日)16：30～18：00

場所：岡山大学創立五十周年記念館金光ホール

受付開始：16：00

テーマ1：教育とビッグデータ

講演者: 木村治生(ベネッセ教育総合研究所)

時間: 16: 30~17: 15

テーマ2: サッカーとビッグデータ

講演者: 安松幹展(立教大学)

時間: 17: 15~18: 00

各講演の詳細は連合大会のウェブページ[プログラム: 市民講演会]の項目に掲載します。

8. 企画セッション, ソフトウェア・デモンストレーションセッション一覧

企画セッションとソフトウェア・デモンストレーションセッションを設けます。各セッションが配置されている時間帯, 会場, テーマとオーガナイザー氏名(所属)は以下の通りです。詳細プログラム, テーマのねらいや講演者・講演タイトル等につきましては連合大会のウェブページに掲載します。

企画セッション名とオーガナイザー

9月7日(月) 10: 00~12: 00

A会場 日本計量生物学会奨励賞受賞者講演
大森崇(神戸大学)

B会場 大学教育の質的改革 入試改革・反転授業とアクティブラーニング 竹内光悦(実践女子大学)・藤井良宜(宮崎大学)・渡辺美智子(慶應義塾大学)

F会場 公的統計におけるデータ利用の新たな展開 小林良行(統計研修所)

M会場 統計的従属性モデリングの理論と応用 増田弘毅(九州大学)

9月7日(月) 13: 00~15: 00

A会場 日本計量生物学会シンポジウム「適正な医学研究の推進と発信に向けて」 手良向聡(京都府立医科大学)・大森崇(神戸大学)

B会場 大学教育の質的改革 知識基盤社会におけるデータサイエンス教育の展望 竹内光悦(実践女子大学)・藤井良宜(宮崎大学)・渡

辺美智子(慶應義塾大学)

C会場 Wakimoto Memorial Session(CIPS-JSS-KSS International Session for Young Scholars) 塚原英敦(成城大学)

M会場 超高頻度データ解析と計算統計 内田雅之(大阪大学)

9月8日(火) 10: 00~12: 00

B会場 応用統計学会 学会賞 受賞者 講演
大西俊郎(九州大学)・井元清哉(東京大学)

C会場 CSA-KSS-JSS joint international session : Recent Developments in Biostatistics Yuan-chin Chang(Academia Sinica)・Donguk Kim(Sungkyunkwan University)・塚原英敦(成城大学)

M会場 スポーツにおけるビッグデータの活用 酒折文武(中央大学)

9月8日(火) 13: 00~15: 00

A会場 日本統計学会会長講演および各賞授賞式 鎌倉稔成(中央大学)

B会場 応用統計学会シンポジウム 自然科学へのデータ駆動型アプローチ 福水健次(統計数理研究所)

C会場 CSA-KSS-JSS joint international session : Machine Learning and Its Applications Yuan-chin Chang(Academia Sinica)・Donguk Kim(Sungkyunkwan University)・塚原英敦(成城大学)

M会場 日本計算機統計学会企画セッション 医学分野でのシミュレーションの応用 弘新太郎(ファイザー株式会社)

9月8日(火) 15: 30~17: 30

A会場 日本統計学会 各賞受賞者記念講演 鎌倉稔成(中央大学)

C会場 CSA-KSS-JSS joint international session : Statistical Methods in Finance Yuan-chin Chang(Academia Sinica)・Donguk Kim(Sungkyunkwan University)・塚原英敦(成城大学)

M 会場 アジアの公的ミクロ統計の活用 馬場
康維(統計数理研究所)

9月9日(水) 10:00~12:00

B 会場 日本分類学会シンポジウム: コレスポン
デンス分析・Dual Scaling・数量化理論再考
今泉 忠(多摩大学)

D 会場 日本計量生物学会ワークショッププロ
の生物統計家のための行動基準を考える教育プ
ログラム 佐藤恵子(京大大学)・和泉志津恵
(大分大学)

ソフトウェア・デモンストレーションセッション

下記の日時・会場で5つの報告がございます。
ふるってご参加ください。

9月8日(火) 10:00~12:00 A 会場

**文部科学省科学技術試験研究委託事業「数学・数
理科学と諸科学・産業との協働によるイノベーシ
ョン創出のための研究促進プログラム(略称: 数
学協働プログラム)」による数学協働プログラム・
ワークショップ「統計科学の最先端と産業界・諸
科学への展開」の開催について**

共催: 岡山大学大学院社会文化科学研究科・文部
科学省(統計数理研究所)・統計関連学会連合

**9月7日(月) 10:00~15:00, 8日(火) 10:00
~17:30 M 会場**

企画セッションのうち、「統計的従属性モデ
リングの理論と応用」、「超高頻度データ解析と計算
統計」、「スポーツにおけるビッグデータの活用」、
「医学分野でのシミュレーションの応用」、「アジ
アの公的ミクロ統計の活用」については数学協働

プログラム・ワークショップ「統計科学の新展開
と産業界・社会への応用」として実施し、参加費
無料といたします。

趣旨: 統計科学は、我々の産業界・社会における
広範囲の分野においてその応用が急速に進んでお
り、数学・数理科学的な知識を活用することで
様々な社会現象を解明する試みがなされ、その洞
察に基づいた諸問題に対する解決方法が提案され
ている。具体的には支配原理や法則が明確ではな
い諸現象を確率的な事象として解釈し、そのメカ
ニズムを記述・解明する統計モデルを構築するこ
とで現象の理解・解明・検証を行い、将来の予測
や仮想的なシミュレーションを通じて、諸問題の
解決への提案を行う。本ワークショップは、特に
産業界・社会における新しい課題・ニーズを重視
して上記の5つの企画セッションを取り上げるこ
ととし、統計科学によるそれらの問題への解析・
解決の方法について明らかにしていくことを目的
とする。

9. コンペティション

今年度も若手会員の質の高い研究・発表の奨励
を目的としてコンペティションを実施します。コ
ンペティション講演セッションは、9月7日(月)
~8日(火)にD会場で行います。発表時間は質
疑を含めて20分とさせていただきます。なお、表
彰式は8日(火)17:40からA会場にて行います。
詳細は連合大会のウェブページ[プログラム: コ
ンペティション講演セッション]の項目に掲載し
ます。

以上

11. 理事会・委員会報告(平成27年5月16日開催)

第1回通常理事会

日時: 2015年5月16日(土) 10:00~11:00

場所: 中央大学後楽園キャンパス6号館10階

61005号室

理事の総数 12名 出席理事の数 12名

監事の総数 2名 出席監事の数 2名

出席者

理事: 国友直人(会長), 鎌倉稔成(理事長), 三分一史和(庶務), 酒折文武(庶務), 大野忠士(会計), 西山陽一(会誌編集・欧文), 谷崎久志(会誌編集・和文), 竹内恵行(広報), 勝浦正樹(大会), 渡辺美智子(検定), 宿久洋(企画・行事), 中野純司(国際関係)(以上12名, カッコ内は役割分担)

監事: 竹村彰通, 矢島美寛

<第1 議案> 2014年度事業報告について

鎌倉理事長より資料に基づき2014年度事業について報告があり, 審議の結果これを修正込みで承認し, 定時社員総会にて報告することとした。

<第2 議案> 2014年度決算報告について

大野理事より, 資料に基づき, 2014年度決算について報告があり, 審議の結果これを承認し, 定時社員総会にて報告することとした。

<第3 議案> 監査報告について

竹村監事より, 資料に基づき, 2014年度事業報告および計算書類の監査の結果, 適切な処理がなされているとの報告があった。

<第4 議案> 臨時委員会の設置と委員の選任について

国友会長より提示されたJSS-Springer編集委員会運用規則(案)に基づき, 臨時委員会として日本統計学会JSS-Springer編集委員会の設置についての提案があり, 審議の結果これを承認した。続いて, 会長より提示されたJSS-Springer委員会の委員の候補に基づき, 以下の会員を委員とすることを承認した。

委員長: 国友直人, 副委員長: 竹村彰通

委員: 北川源四郎, 樋口知之, 吉田朋広, 狩野裕, 濱崎俊光, 松井茂之, 岩崎学

<第5 議案> 会員の入退会

鎌倉理事長より示された回覧資料に基づき, 内

容を承認した。

<第6 議案> 定時社員総会召集の件

国友会長より, 定時社員総会を以下のとおり召集する提案があり承認した。

1. 日時 2015年6月13日(土曜日) 午後1時30分から
2. 場所 中央大学後楽園キャンパス6号館4階6418号室(控室6号館4階6417号室)
3. 会議の目的事項
(1) 定時社員総会における通常の審議

委員会

日時: 2015年5月16日(土) 11:00~11:50

場所: 中央大学後楽園キャンパス6号館61005号室

出席: 国友直人(会長), 鎌倉稔成(理事長), 三分一史和, 酒折文武, 大野忠士, 西山陽一, 谷崎久志, 竹内恵行, 勝浦正樹, 渡辺美智子, 宿久洋, 足立浩平, 竹村彰通(監事), 矢島美寛(監事)

<報告事項>

1. 欧文誌編集委員会

西山委員長より, 第29回小川賞の受賞者が報告され, 社員総会への報告を経て公表することとした。次に, Vol.45, No.1(2015年8月頃発行予定)の進捗状況について報告があった。また, 論文データベースEBSCOから, JJSSの論文の検索をEBSCOのユーザ以外にも可能としたいとの連絡があり, 申し出のとおり対応したとの報告がなされた。

2. 和文誌編集委員会

谷崎委員長より, 第45巻第1号の進捗状況, JSTAGEから論文公開されたこと, これまでCiNiiで公開していた電子版の契約が終わり申し合わせを行ったことが報告された。また, 学術著作権協会から紙媒体だけでなく電子版の複写権も委託するとの打診があり, 申し出のとおり対応したとの報告がなされた。

3. 大会委員会

勝浦委員長より、資料に基づき、2015年度統計関連学会連合大会に関する報告があった。

4. 企画・行事委員会

報告事項なし。

5. 庶務委員会

報告事項なし。

6. 広報委員会

竹内委員長より、会報の発行状況についての報告があった。

7. 国際関係委員会

報告事項なし。

8. その他

なし。

<審議事項>

1. 欧文誌委員会

審議事項なし。

2. 和文誌委員会

審議事項なし。

3. 大会委員会

審議事項なし。

4. 企画・行事委員会

審議事項なし。

5. 庶務委員会

審議事項なし。

6. 広報委員会

竹内委員長より、周年記念事業関係の書籍等の情報を学会WEBページに掲載する旨の提案があり、審議の結果これを承認した。

7. 国際関係委員会

審議事項なし。

8. その他

なし。

12. 定時社員総会報告

日時: 2015年6月13日(土) 13:30~14:30

場所: 中央大学後楽園キャンパス6号館4階6418号室

出席者: 国友直人会長、鎌倉稔成理事長、岩崎学、大森裕浩、西郷浩、椿広計、中野純司、舟岡史雄、村上征勝、矢島美寛、美添泰人、若木宏文、渡辺美智子(以上代議員13名、委任状11通、議決権行使書10通)(オブザーバー: 三分一史和、酒折文武、大野忠士、谷崎久志)

冒頭、国友会長より定足数確認後、開会宣言がなされ、オブザーバー4名の出席が承認された。また、国友会長より議事録署名人として岩崎学、

中野純司両代議員が提案され、承認された。

審議事項

第1議案 2014年度事業報告及び決算の承認に関する件—定款第12条(5)

国友会長および大野理事より、資料に基づき、2014年度事業報告及び決算について報告があり、また、矢島監事より、資料に基づき、監査について報告があり、審議の結果、2014年度事業報告および決算を承認した。

第2議案 理事及び監事の選任に関する件—定款第21条

理事(国友直人, 鎌倉稔成, 三分一史和, 酒折文武, 大野忠士, 西山陽一, 谷崎久志, 竹内恵行, 勝浦正樹, 渡辺美智子, 宿久洋, 中野純司)及び現監事(竹村彰通, 矢島美寛)が本定時社員総会の終結と同時に任期満了し退任することになり, その改選の必要があるため, 被選理事長が作成した新理事候補者一覧および会長が指名した新監事候補者が示され, 審議の結果, 以下のように後任の理事及び監事を選任することとした(2015年6月13日付).

理事 岩崎学, 中野純司, 酒折文武, 間野修平,
山下智志, 倉田博史, 笛田薫, 森裕一, 青木敏,
塚原英敦, 照井伸彦, 瀬尾隆
監事 鎌倉稔成, 国友直人, 田中勝人

報告事項(理事会報告)

1. 会員の入退会

鎌倉理事長より, 資料に基づき, 会員の入退会について報告があった.

2. 日本統計学会 Springer 編集委員会の設置について

国友会長より, 資料に基づき, 日本統計学会 Springer 編集委員会を設置したとの報告があった.

3. その他

特になし.

報告事項(委員会報告)

1. 2015年度連合大会について

鎌倉理事長より, 2015年度連合大会が, 2015年9月6日(日)から9日(水)まで(6日はチュートリアルと市民講演会)岡山大学津島キャンパスで開催され, 会長講演と学会賞各種受賞者講演が予定されている旨報告があった.

2. 2015年3月開催の春季集会に関する報告

鎌倉理事長より, 2015年3月8日に明治大学中野キャンパスにおいて春季集会が開催され, 無事に終了したことが報告された. また, 2016年度は東北大学での開催予定であると報告された.

3. 日本統計学会各賞受賞者について

国友会長(表彰委員会委員長)より, 資料に基づき, 学会賞各賞の受賞者の氏名と受賞理由とが報告された.

4. 科学研究費に関する報告

鎌倉理事長より, 科学研究費助成事業 研究成果公開促進費「国際情報発信強化」が不採択であったことが報告された.

5. その他

特になし.

今回の社員総会の終了をもって任期満了により退任する国友会長と鎌倉理事長より, 退任のあいさつがあった.

13. 日本統計学会会長選挙開票報告

2015-2016年度会長選挙管理委員 竹田 裕一・塚田 真一

本学会会長選挙規程第4条による2015・2016年度会長候補者に対する選挙が行われ, 2015年4月20日に日本統計学会事務局において開票した結果,

岩崎学氏が被選会長として当選しました. 有権者1,403名中, 投票数411, うち有効票数408で, 内訳は, 賛 393, 否 15, 無効票数3でした.

14. 理事会報告(平成27年6月13日開催)

第1 回臨時理事会報告

日時: 2015年6月13日(土) 14:30-15:30

場所: 中央大学後楽園キャンパス6号館4階6418号室

出席者:

理事 岩崎学会長, 中野純司理事長, 酒折文武(庶務), 間野修平(庶務), 山下智志(会計), 笛田薫(編集和文), 森裕一(広報), 青木敏(大会・企画・行事), 塚原英敦(国際), 瀬尾隆(渉外)(以上, 10名, カッコ内は役割分担)

監事 鎌倉稔成, 国友直人, 田中勝人(以上, 3名)

<第1 議案> 会長及び理事長の選出について

被選理事長中野純司が選ばれて議長となり, 会長国友直人と理事長鎌倉稔成が任期満了により退任することとなり, 会長選挙の結果岩崎学会員が被選会長として選ばれ, 被選代議員会において中野純司代議員が被選理事長として選ばれた旨を述べ, 慎重に協議した結果, 会長選挙規程および役員選任規程に則り, 全員一致をもって, 以下のとおり選定した。被選定者は, 席上, その就任を承諾した。

会長 岩崎 学

理事長 中野 純司

以降の議長は理事長が務めることとした。

<第2 議案> 常設委員会における委員の交代について

中野理事長より, 資料に基づき, 以下の委員会

による委員の交代が提案され, 審議の結果, 承認した。

欧文誌編集委員会 永井圭二委員, 西山陽一委員, 星野崇宏委員より倉田博史委員, 清水信夫委員, 松浦峻委員, 宮田敏委員, Chia-Lin Chang 委員に交代(2015年6月13日付)

和文誌編集委員会 大森裕浩委員, 倉田博史委員, 谷崎久志委員, 照井伸彦委員, 宮田敏委員より岩佐学委員, 川口淳委員, 佐井至道委員, 笛田薫委員, 福地純一郎委員に交代(2015年6月13日付)

大会委員会 勝浦正樹委員, 永井義満委員, 長塚豪己委員より青木敏委員, 姫野哲人委員, 元山斉委員に交代(2015年10月1日付)

企画・行事委員会 足立浩平委員, 村上秀俊委員, 宿久洋委員より青木敏委員, 田中研太郎委員, 二宮嘉行委員に交代(2015年6月13日付)

国際関係委員会 中野純司委員が退任(2015年6月13日付)

庶務委員会 大野忠士委員, 樋田勉委員, 三分一史和委員より田畑耕治委員, 間野修平委員, 山下智志委員に交代(2015年6月13日付)

広報委員会 入戸野健委員, 小椋透委員, 竹内恵行委員より久保田貴文委員, 森裕一委員に交代(2015年6月13日付)

<第3 議案> 会員の入退会(回覧)

中野理事長より提示された回覧資料の内容を承認した。

15. 修士論文・博士論文の紹介

最近の修士論文・博士論文を原稿到着順に紹介いたします。(1)氏名(2)学位の名称(3)取得

大学(4)論文題名(5)主査または指導教員(6)取得年月の順に記載いたします。(敬称略)

修士論文

- (1) 中尾浩子(2) 修士(工学)(3) 大阪大学
(4) 傾向スコア解析のブートストラップ法によるモデル選択(5) 下平英寿(6) 2015年3月
- (1) 前田晴義(2) 修士(工学)(3) 大阪大学
(4) 不完全観測において完全データの当てはまりの良さを評価する情報量規準(5) 下平英寿(6) 2015年3月
- (1) 上野真依(2) 修士(工学)(3) 大阪大学
(4) 順序のあるカテゴリカルデータに対するノンパラメトリックベイズモデリング(5) 狩野裕(6) 2015年3月
- (1) 坂口弘樹(2) 修士(工学)(3) 大阪大学
(4) ランダムでない欠測と shared-parameter model に関する研究(5) 狩野 裕(6) 2015年3月
- (1) 余田知子(2) 修士(工学)(3) 大阪大学
(4) 傾向スコアの推定方法及びバランシング条件に対する処理効果の比較(5) 熊谷悦生(6) 2015年3月
- (1) 小林広明(2) 修士(工学)(3) 大阪大学
(4) Statistical dependence measures に関するシミュレーション比較(5) 熊谷悦生(6) 2015年3月
- (1) 黒岩遼平(2) 修士(工学)(3) 大阪大学
(4) IBNR クレームの点過程モデルと統計的リスク評価(5) 内田雅之(6) 2015年3月
- (1) 塩入直哉(2) 修士(工学)(3) 大阪大学
(4) 保険リスクモデルにおける絶対破産確率の拡張(5) 内田雅之(6) 2015年3月
- (1) 野北明寛(2) 修士(工学)(3) 大阪大学
(4) ハイブリッド・マルチステップ推定量による拡散過程のポラティリティ推定(5) 内田雅之(6) 2015年3月
- (1) 服部 海(2) 修士(工学)(3) 大阪大学
(4) レヴィ型保険リスクモデルにおけるキャピタルインジェクション(5) 内田雅之(6) 2015

年3月

- (1) 松本 聡(2) 修士(工学)(3) 大阪大学
(4) 微小拡散過程における適応的推定量の漸近的性質(5) 内田雅之(6) 2015年3月
- (1) 国武照代(2) 修士(医科学)(3) 久留米大学(4) 婦人科悪性腫瘍患者の下肢リンパ浮腫発症に関連するリスク因子の検討(5) 角間辰之(6) 2015年3月
- (1) 松尾健一(2) 修士(医科学)(3) 久留米大学(4) 高齢者の健康度と地域特性との関連性について(5) 角間辰之(6) 2015年3月
- (1) 米澤ゆう子(2) 修士(医科学)(3) 久留米大学(4) 手術室における針刺し・切創事故に関する記述統計および要因分析(5) 矢原耕史(6) 2015年3月
- (1) 樋口恭子(2) 修士(医科学)(3) 久留米大学(4) シスプラチンの用法・要領が問題となる腎機能レベルの検討(5) 米本孝二(6) 2015年3月

博士論文

- (1) 青山淑子(2) 博士(医学バイオ統計学)
(3) 久留米大学(4) Comparing two diagnostic tests when two tests are applied to same patients ad test scores are given in categories(5) 柳川 堯(6) 2014年8月
- (1) 堤 千代(2) 博士(医学バイオ統計学)
(3) 久留米大学(4) 健診データによる口腔ケア行動とメタボリックシンドロームの関連(5) 角間辰之(6) 2015年3月
- (1) 吉田寿子(2) 博士(医学バイオ統計学)
(3) 久留米大学(4) 動径既定関数ースパース偏最小二乗法の脳画像データへの適用(5) 川口 淳(6) 2015年3月
- (1) 早川正信(2) 博士(医学バイオ統計学)
(3) 久留米大学(4) 後発医薬品選定基準の開発(5) 柳川 堯(6) 2015年3月

16. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します。

・桂利行(編)池田敏春・佐藤好久・廣瀬英雄,
『理工系学生のための線形代数 Web アシスト 演習付』, 培風館, 2015年5月, 1,900円+税,
ISBN: 978-4-563-00491-4

内容紹介: 演習用にオンラインアダプティブ IRT (項目反応理論) システム「愛あるって」を付けている。学習者の到達レベルに合わせた問題を解いていくと自然に力がついていく仕組みで大学教科書にこのシステムが付けられたのは初めてである。

17. 会員の諸活動(受賞等)について

会員の諸活動について, 前号会報発行後に広報委員会に会員の皆様からお寄せ頂いた情報をご紹介します。

平成26年秋の叙勲における受章(50音順)
伊藤 彰彦 会員(瑞宝中綬章)
竹内 啓 名誉会員(瑞宝重光章)

平成27年春の叙勲における受章(50音順)
藤井 光昭 名誉会員(瑞宝中綬章)
松田 芳郎 名誉会員(瑞宝中綬章)

(ご本人の了解が得られたもののみ掲載しております。)

受賞等の会員の諸活動についての情報をお持ちでしたら, 随時広報委員会までお寄せ下さい。

18. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2015年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。また便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上, こちらもご活用下さい。

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに, 氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6

能楽書林ビル5F

(公財)統計情報研究開発センター内
日本統計学会担当
Tel & Fax: 03-3234-7738
E-mail: shom@jss.gr.jp

入会承認

明石郁哉, 秋元良友, 阿部穂日, 飯田雅臣, 池端利幸, 池村恵一, 伊藤伸一, 江口翔一, 江本達, 大塚優, 岡部格明, 奥戸道子, 神谷高浩, 唐木田亮, 木村晃敏, 工藤雅紀, 熊谷章, 倉田澄人, 栗栖大輔, 小林広明, 近藤愛, 坂口翔政, 定明子, 清水優祐, 鈴木讓, 須藤慶大, 鷲見拓哉, 高橋卓,

高橋将宜, 高橋康志, 高畠哲也, 竹井大輔, 田辺竜ノ介, 玉江大将, 土田潤, 長瀬真利雄, 中村知繁, 縄田雅秀, 西脇毅, 野川和幸, 萩原克幸, パトリック・ホイ, 濱元淳子, 檜垣宣貴, 藤本一郎, 前田良太郎, マクリン謙一郎, 箕輪大介, 宮崎誠也, 椋木伸吾, 森田祐介, 山崎大輔, 山田英夏, 吉田光正, 劉言, ルー・シャオレイ (敬称略)

退会承認

安達毅, 石橋雄一, 市野省三, 色川卓朗, 王在喆, 太田拓男, 大竹杏奈, 金子周平, 栗下和義, 栗原伸一, 栗山規矩, 米田有香子, 佐藤健一, 塩

津巖, 新熊邦男, 高見澤秀幸, 中津貴文, 中村剛, 福田靖一, ニツ矢昌夫, 古谷美佳, 湊裕章, 山下俊恵, 山元周行, 横田彰, 渡邊エドモンド・ブラウン・禎子 (敬称略)

現在の会員数(2015年7月18日)

| | |
|------|--------|
| 名誉会員 | 17名 |
| 正会員 | 1,422名 |
| 学生会員 | 58名 |
| 総計 | 1,497名 |
| 賛助会員 | 18法人 |
| 団体会員 | 7団体 |

19. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの, 会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

- 来日統計学者の紹介
訪問者の略歴, 滞在期間, 滞在先, 世話人などをお知らせください。
 - 博士論文・修士論文の紹介
(1) 氏名(2) 学位の名称(3) 取得大学(4) 論文題名(5) 主査または指導教員(6) 取得年月をお知らせください。
 - 求人案内(教員公募など)
 - 研究集会案内
 - 新刊紹介
著者名, 書名, 出版社, 税込価格, 出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし, 主観的な表現は避けてください。
 - 会員活動紹介(叙勲・受章, 各種受賞等)
- 原稿はできるだけ e-mail による投稿, もしくは, 文書ファイル(テキスト形式)の送付をお願い致

します。

原稿送付先:

〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1
岡山理科大学 総合情報学部 社会情報学科
森 裕一 宛
E-mail: koho@jss.gr.jp
(統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- 統計学会ホームページ URL:
<http://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL:
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL:
<http://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス:
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス:
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス:
shom@jss.gr.jp